

インターバンクの声（2017 年 6 月 2 日）

5 月 24 日から 25 日にかけて半日ほど 112 円台前半に乗せる場面があったドル円だが、この時を除けば 5 月 18 日以降 2 週間も 110 円から 112 円までの 2 円にも満たないレンジ内での取引が続いている。この間の市場は、トランプ米大統領の政権運営に対する不安や軟調な米経済指標の発表が相次いだこともあり、そろそろ円高に動き出すとの予想が増えていた。

昨晚発表された米民間雇用サービス会社オートマティック・データ・プロセッシング (ADP) と今晚の米労働省が発表する雇用統計が予想よりも弱い内容となれば、今月 13-14 日に開催される FOMC を待たずにドル売り・円買いが進むとの声も出ていた。

ただ、昨晚の ADP 雇用統計は、5 月の民間就業者就業者数が前月から 25 万 3 千人増と市場予想を大きく上回った。今晚の雇用統計も確認したいところだが、取りあえずは一昨日のドル安値水準からは 1 円近いドル高・円安となった。それでも過去 2 週間のレンジの上値 112 円を超えてまでドル高になりそうな勢いは感じられず、もう少しばらくレンジ内の値動きが続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。